

過剰生育防止と効率的な収穫作業のため
 「早めの中干し・溝切り」を実施しましょう！

ここがポイント！！

- 1 ワキの発生が多い場合は、夜間落水や用水の更新を実施
 2 適正な茎数と健全な根を確保するため、中干しは遅れずに開始

1 今後の天気（5月19日～6月18日：新潟地方气象台発表5/17発表）

- ・気 温：低い確率30%、**平年並みの確率 30%**、高い確率 40%
- ・降水量：少ない確率 20%、**平年並みの確率 40%**、多い確率 40%
- ・日照時間：少ない確率 40%、**平年並みの確率 40%**、多い確率 20%

2 中干しまでの栽培管理

- (1) ワキの発生が多い（水田に足を入れた時に、土中から気泡が大量に出てくる）場合は、夜間落水や用水の更新を行う。
 (2) 表層剥離・アオミドロが多い場合は、薬剤散布も検討する。

3 中干し・溝切り

中干し・溝切りの効果

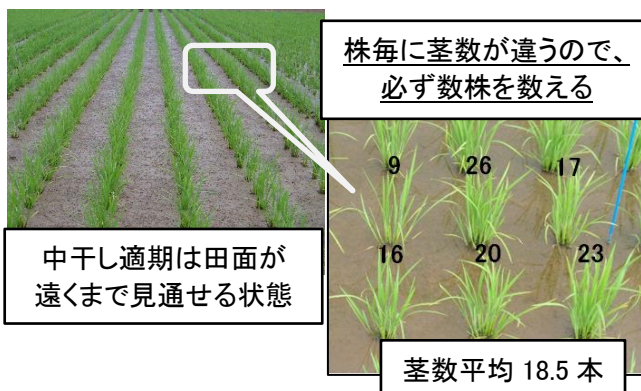
- ◇ 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保
- ◇ 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ◇ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ◇ 収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保
- ◇ 作溝によりフェーン等緊急時の迅速なかん水や、秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能

(1) 中干し開始のめやす

- ア 茎数が目標穂数の7～8割（生育過剰地域は6～7割）になったら開始する。
 イ 生育が遅れて茎数が少ない場合でも、田植え30日後には中干しを開始する。

表 品種別中干し開始めやすの茎数

品種	目標穂数 (本/m ²)	めやすの茎数	
		(本/m ²)	(本/株)
		50株 植え	60株 植え
コシヒカリ	350	280	18 15
こしいぶき	400	320	21 18
新之助			



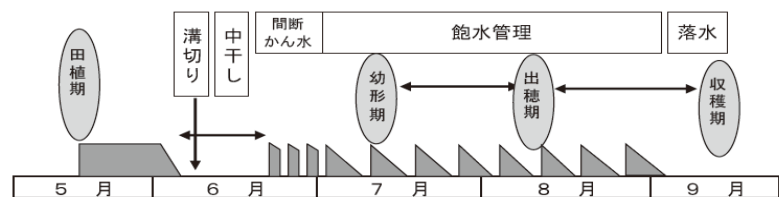
(2) 溝切り

- ア 中干しの効果を高めるため、溝切りは必ず実施する。
- イ 溝は8～10条間隔毎に切り、溝の深さは10cm以上とする。
- ウ 溝の末端は必ず水口及び水尻につなげる。

4 中干し後の栽培管理

(1) 水管理

- ア 中干しは田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度までしっかり干す。
- イ 中干しが不十分でも、出穂1ヶ月前までには終了する。
- ウ 中干し終了直後は、うわ根の発根促進や根の健全化のため、浅水の中断かん水を実施し、徐々に飽水管理(自然落水で溝や足跡の底に水が溜まる状態になったらかん水)に移行する。



(2) ケイ酸追肥

ケイ酸は登熟期の高温による品質低下を軽減させる効果があるので、基肥時にケイ酸質資材を施用していない場合は、出穂40日前頃(6月下旬)に施用する。

5 病虫害防除

(1) 葉いもち防除

- ア 補植苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除く。
- イ 「新之助」や「わたぼうし」などいもち病にかかりやすい品種で、予防薬剤を育苗箱施用していない場合は、6月第2半旬までに予防粒剤を水面施用する。

(2) 斑点米カメムシ対策

- ア 雑草種子が結実しない間隔(3～4週間)で定期的に畦畔や農道等の草刈りを徹底する。
- イ 水田内に取りこぼしたヒエやホタルイがある場合は、抜き取り、もしくは中・後期除草剤を使用する。

6 「新之助」栽培のポイント

- (1) 異品種混入防止等のため浮き苗は確実に除去する。また、「新之助」作付け1年目のほ場では特に、前年の漏生粳由来の稲株を確実に除去する。
- (2) 5月20日以降に田植したほ場では、稲株が小さいうちにワキの発生時期になるため、用水の更新等の対策を徹底する。
- (3) 茎数が増えやすい品種なので、中干し・溝切りが遅れないようにする。

メールマガジン登録募集中！

年間を通じ水稻生育状況や栽培管理のポイント、作柄に関する情報をお届けします！
登録ご希望の方は次のアドレスにご連絡を！ ngt112130@pref.niigata.lg.jp
※件名に「作物技術情報メルマガ登録希望」、本文に「お名前」と「住所」をご記入ください